



8月31日、排水が完了した中央2丁目付近で、泥の撤去を始める住民ら

# 復旧に向け、作業進む



1/弘前大学ボランティアセンターと弘前市ボランティア支援センターが連携し「チームオール弘前」としてボランティア活動を展開 2/店舗から運び出した家財を洗浄する岩手大学の学生ら 3/店舗内の泥を土のう袋いれ運び出します 4/水に浸かった中の橋の店舗内を清掃する久慈中学校美術部の生徒 5/十八日町の店舗で陳列棚の泥を丁寧に拭き取る三崎中学校の生徒

## 被災者に寄り添い、一緒に汗を流してくれた皆さん 温かいご支援ありがとうございました

台風10号による災害発生から1カ月。ボランティアの協力や救援物資・義援金など全国からの支援も受け、徐々に復旧へ向けた作業が進んでいきます。台風による被害や寄せられた支援についてお知らせします。(9/9まで)

### ■ボランティアが支援

発災から一カ月、復旧に向けた作業が徐々に進みつつあります。この作業を支えているのが市内外から参加したボランティアの皆さん。市では9月1日に災害ボランティアセンターを開設し、翌日からボランティアによる支援活動がスタートしました。

同センターを通して、活動したボランティアは9月26日までに延べ3125人。民生委員からの連絡や、住民からの要請に基づいて住宅や商店を訪問し、泥の撤去や室内の清掃、家財の移動などの支援を行っています。

### ■若い力が後押し

中学生、高校生ら若い力も作業を後押ししています。大川目中学校では、9月7日



洋野町からも大野中学校の1年生52人が参加し、泥の撤去などを実施

### ■遠方からの支援も

被害を知り、遠方から支援に訪れた人たちもいます。12日から18日にかけて活動したドリームチーム「集結」(田井義司隊長)は、東日本大震災をきっかけに関東の消防職員OBらが結成。熊本など各地の災害に駆けつけているといわれています。久慈では10人のメンバーが活動。工具や移動用の車なども自分たちで用意し、住人の要望を受けながら、床



一週間にわたって市内で活動した「集結」メンバーの皆さん



室内の床や壁面を清掃する大川目中学校の生徒たち

に3年生19人が参加して中の橋地区の住宅で、堆積した泥の撤去や室内の清掃などを実施しました。ボランティアを依頼した三角賢俊さんは「あまりの作業量に途方に暮れていたのに、人手があるのは、ただただ助かります。手伝っていただいたことで『諦めずに頑張ろう』と思えました」と感謝しきり。学級委員長の外里拓也君は「ボランティアが必要だと先生から聞き、『地域の役に立ちたい』『みんなを助けよう』とクラスで参加を決めました。実際にやってみると、泥が重たくて撤去は大変で、みんなで力を合わせないと作業が進みませんでした。被害を受けた人は大変だと思いが、協力しながら乗り越えていけたらと思います」と話しました。



手際よく床板をはがし、泥をかき出していきます

板をはがすなどの技術が必要な仕事も手際よくこなし、依頼者から感謝の言葉を受けていました。一週間にわたる活動を終えて、メンバーの本谷忠さんは「自分たちだけでやるう」と思うと、どうしても大変になってしまうので、まずは相談してみることが大切。家にこもらず、外に出て気分転換もしながら、明るく乗りきってほしいと思います」とエールを送りました。

### ボランティアの募集・要請

#### 久慈市災害ボランティアセンター

(久慈市社会福祉協議会内) ☎53-3380

ボランティアに参加していただける方を募集しています。また、被災を受け、ボランティアの支援が必要な方は、災害ボランティアセンターまでご相談ください。